

紫野



2020 Vol.12

びわこ学院大学 広報誌
びわこ学院大学短期大学部

発行 令和2年10月

【掲載目次】

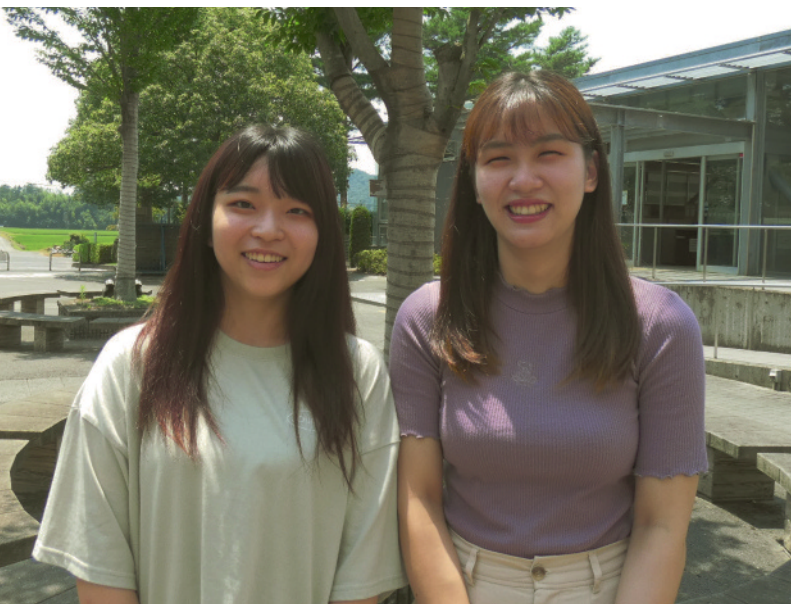
《特集1》新学長に聞く

《特集2》めしませ、近江のおむすびプロジェクト

本学の新型コロナウイルス感染症対策について /

春学期 オンライン授業の実施について / 近況報告 /

教員紹介 / 卒業生状況 / 地域連携 / 大学News



新学長に聞く

2020（令和2）年4月、びわこ学院大学第4代、びわこ学院大学短期大学部第10代学長に就任された沖田 行司先生にびわこ学院大学学友会会長の畠夏希さんがインタビューしました。

※記事は、インタビュー実施日（8月4日）時点に基づくものです。

滋賀県で最も有名な大学に

畠 本日はよろしくお願いいたします。就任されて4ヶ月が経過しましたが、現在の率直な感想をお聞かせください。

沖田 学生の皆さんが素直であるという強い印象を持っています。以前から耳にしていたのですが、教職員と学生の距離が近く、関係が密接であるということを実感しています。

畠 大学も春学期の対面授業は一部で、以前のような活気が戻るのはまだ先です。着任前に抱いておられたイメージと違いはありませんか。

沖田 若い小規模大学なので、「これから大学をどうしていこうか」という熱い議論が教職員・学生を問わずに起きていると思っていました。残念ながらコロナ禍の様々な対応に追われ、そのような議論は耳にしません。これからの大学ですから、多くの議論を重ね、学生の皆さんが将来もプライドを持ってもらえる大学にしなければならぬと思っています。

畠 学長先生に就任されるにあたり、どのような思いや目標をお持ちでしたか。

沖田 この大学を有名にしたいという思いがあります。今年度第1回教授会の中でもそのように申し上げました。滋賀県の大学と言えば、びわこ学院大学と言ってもらえるように頑張りたい。そのためには、良い教育を行い、教育を受けた学生の満足度、卒業時の就職率も高いものである必要があると思っています。

畠 学長先生の言葉どおり、私自身の学生生活を振り返っても先生との距離が近く、質問等がしやすい環境で勉強ができています。また、先輩・後輩を含め、学生同士のコミュニケーションもスムーズに取れるので、居心地の良さも感じています。人前で話をすることに、苦手意識が少なくなっていることが大学生活での自身の成長だと感じています。

小規模だからこそできること

畠 良い教育と高い満足度について、具体的に教えていただけますか。



沖田 一つは質の高い教育を与えることです。簡単に単位を取れる、簡単に卒業できるではなく、本学でしか学べない、〇〇先生にしか学べないことを提供していくことが重要であると考えています。少子化の中、各私立大学が生き残りのため、独自性を打ち出しています。本学の先生方には研究成果を示していただき、実績に基づく授業を展開して頂きたいと思っています。

二つ目は、多様な進路を大学が提供できることです。就職活動と言えば、インターネットの就職サイトや企業説明会への参加等を通じて個人が探すのが一般的ですが、個々の学生の適性にあった就職先を大学で斡旋できる、そういうケースが増えれば良いと思っています。そのためには、大学と外部組織との連携が不可欠ですので、このあたりも強化していきたいと思っています。

畠 先生が長く勤めて来られた大規模大学と、本学のような小規模大学ではカラーが大きく違います。

沖田 授業のためだけに大学に出てくる学生は、日本の大規模大学では先生の目に止まらない場合が大半ですが、本学のような小規模校の場合、自然と先生から声をかけてもらえる…これが良さです。

前任校で国際交流の仕事をして、世界各地の大学を訪問した経験がありますが、その中で見た米国の大学では、大規模校でも教育担当と研究担当の教員にわかれ、きめ細かなサポートをしていました。

日本の大学と桁違いに学費が違うので、サービスの違いも当然かもしれませんが、その大学では学生のモチベーションを与えることを重視していました。

小規模大学でしかできないことは何かについて、教職員が突き詰めて考えたいと思っています。

コロナ対策…オンライン授業の可能性

畠 就任早々、新型コロナウイルス感染症対策の対応にご苦労いただいたことと察します。

沖田 私も授業を担当していますが、私自身、オンライン授業は初めての経験でした。授業を軌道に乗せようと思うと、教員は今までの対面授業より、かなり入念な準備作業が必要になることがわかりました。個人的には対面授業が基本だと思いますが、今後に向け、オンライン授業も上手に活用する必要があると考えています。例えば、近隣大学をはじめ国内他大学の授業を聴講したり、単位互換をしたり、世界各地の大学と提携したりという可能性があり、時間・空間を離れ、学びが大きくなるというメリットを感じました。

一方で受講者の意識の問題について、複数の指摘がありました。オンラインだけというのも教育としては良くないとも感じました。



学長

おきた ゆくじ
沖田 行司

1948年京都生まれ。同志社大学大学院 文学研究科文化史学専攻博士後期課程修了。
同志社大学文学部、講師、助教授などを経て、
1990年から教授。2005年より社会学部教授。
2019年3月に退職し、2020年4月から現職。
専門は、教育史

寫 私もZOOMによるリアルタイム型のオンライン授業を受講しましたが、模擬保育の場面など、内容によってはタイムラグが生じたり、困った時に先生に聞きにくいなど、対面でないと受けにくい授業もありました。

沖田 今後、授業内容によって対面とオンラインを使い分けることが必要となってくるでしょう。オンデマンド型の講義は、受講時間を選択できるという点も大きな魅力です。

寫 個人的には自宅で授業を受けると、集中できず学習意欲が湧かない時がありました。教室で、対面授業を受けられることのありがたみが分かった気がします。

沖田 オンライン授業にも大きなメリットがありますので、次年度以降に向け、対面とオンラインを使い分けるカリキュラムを構築する必要があると思っていますし、色んな大学で検討が始まっているようです。前年までのように、対面だけでしか授業ができない大学は、今後、潰れていくかもしれないと予想しています。

寫 他大学では春学期に全くキャンパスに入れなかったということも聞きます。

沖田 新入生が全く大学に入れないうちが学期が終わったと聞くと何とも言えない気持ちになります。良き友人、良き先生、良き書物との出会いは大学生活の重要な要素になります。本学が対面授業の一部再開を模索した時も、何とか1年生と最上級生が大学に来られないか…と考えました。

新型コロナウイルスについては不明点が多く、心配は尽きませんが、色々な可能性を考えながら、責任を持って、本学に最も適した対応を決断しなければならないと思っています。

寫 新型コロナウイルス対策で最もご苦労された点について、教えていただけますか。

沖田 色々な方と話をする機会がありましたが、危機意識の差がかなり大きいように感じました。もちろん、安心・安全が第一です。6月から一部授業を対面で実施するにあたり、三密回避、感染防止対策の徹底等を議論しましたが、皆が完璧に取り組めたかと問われれば、正直、怖い点もあります。

そういう意味でも、皆の意識を高めるという点で苦労したのかと思います。春学期は、コロナのおかげで思い描いていた大学教育と大きく異なる洗礼を受けましたが、一方で、大学について考えるチャンスを頂いたとも思っています。

在学中も卒業後も「びわ学プライド」を持ってもらえるように！

寫 最後に本学の学生に期待されること、伝えたいメッ

セージを教えてください。

沖田 生きていく上で大切なものは色々ありますが、私はプライドが大事だと思っています。学生の皆さんに最も伝えたいのは、自分の学んでいる大学にプライドを持って欲しいということです。プライドが歴史を作っていく。他人に何を言われようが、「小規模だが、しっかり大学で学んできた。」と胸を張って言ってほしいと思っていますし、そのような姿勢で自ら積極的に学んでいくことが大切です。

学生の皆さんの1人ひとりのプライドが、大学に大きな力を与えます。もちろん、卒業しても本学に誇りを持ってもらえるよう、大学を発展させていくことが、私達教職員の使命だと思っています。

寫 学生全員に本学の襟章（バッジ）を配布して頂いていますが、例えば就職活動等でスーツを着用する時などにつけない、つけにくいという声を友人達から聞くこともありました。その理由を尋ねることや、深く考えることはしなかったのですが、学長先生の話の聞くと、自分の大学に誇りを持っていないことが関係するのだと思います。

沖田 全国、どこの大学でも珍しくない話ですが、第1志望以外で入学した方の中に、大学に対して否定的な発言をされる方がおられます。偏差値で大学を選ぶ傾向や、個々の学生さんの事情がありますから、不本意入学という方が多かれ少なかれ存在します。

例え第1志望でないにしても、自分がその大学を選択し、授業料を払ってその場所で学び、これから何年もいる存在ですから、自らの選択に誇りを持つというのは当然の考え方だと思います。学生の皆さんに本学に誇りを持ってもらえるには何が必要か、私も考えている最中ですが、学生の皆さんも自ら積極的に見つけてほしいと願っています。

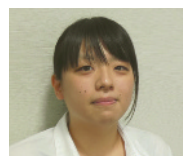
もし、地方小規模大学という環境面を否定的に捉えているなら、視点を変えてほしい。都会の大学で自動車通学などは考えられません。自動車で通学できることは、本学の長所です。また、各学科1学年の定員が最大80名で、大学・短大あわせ600名という規模は、高いお金を払っても、手に入れることができない理想的な教育環境と言えます。何万人規模の大学では得られない学びが本学では可能です。キャッチフレーズにしている「小さな大学で、大きく学ぶ」はそのような思いが込められています。学生の皆さんには、是非とも自分が学ぶ大学に誇りを持ってください。

大学を作るのは歴史です。「卒業生の誇りが大学を作る」という言い過ぎかもしれませんが、そのような側面があるのも事実です。豊かな想像力を駆使し、挑戦や失敗を恐れず、学生生活を精一杯歩んでくださることを願っています。

インタビューを終えて

最初は緊張しましたが、親しみやすい雰囲気を作ってくださり、自然と話に惹きこまれました。色々な話を聞かせて頂くことができ、貴重な時間でした。

学長先生からプライドという言葉が何回も出てきたのがとても印象的でした。



インタビュー
寫 夏希さん
[教育福祉学部子ども学科4年生]



めしませ、 近江のおむすび プロジェクト

湖東地域の重要伝統的建造物群保存地区（重伝建地区）で近江米「みずかがみ」のおむすびをお客さまにふるまい、食を通じて「昔から変わらない滋賀の宝を次世代に残していくためにも、多くの人に地域の魅力をもっと知ってもらいたい。」そのような、地元の大学生たちの思いからプロジェクトは生まれました。

●プロジェクトの概要

プロジェクト期間は2020（令和2）年～2022（令和4）年の3年間で、主に以下の取り組みを計画していますが、コロナ禍の影響もあり開始時期を検討中です。

- ① 彦根、東近江（五個荘）、近江八幡の重要伝統的建造物群保存地区（重伝建地区）で、おむすびを無料提供
- ② 湖東地区の伝建地区マップをつくり、スタンプラリーを実施
- ③ 若手工芸家による空き町家での作品展示会やイベント
- ④ 歴史的建造物について学ぶ伝建地区セミナー
- ⑤ 「世界食料デー ～おにぎりアクション～」に投稿

オリジナルキャラクター



河五八（かごはち）

かごやん

伝建地区それぞれの頭文字をとって、「お宝まちなみ、河五八」と命名。この河五八をつないで観光を楽しんでもらうことで、新たなまちづくりを行います。



彦 根

河原町・芹町伝建地区

- ・江戸時代前期に川をつかえてうまれた商人町の風情を伝える商家のまちなみ。
- ・歴史的風致をよく示している。



東近江

五個荘金堂地区

- ・農村地帯の田園風景に商人屋敷と社寺がまじりあう独特のまちなみ。
- ・瓦葺きとわら葺きが混在する風情がある。



近江八幡市

八幡地区

- ・商家・町家・土蔵といった近世建築の連続性が高いまちなみが現存する近江商人発祥の地。
- ・うだつをあげる近江商人の居宅が建ち並び、通りに望む見越しの松とともに豊かなまちなみを形成している。

プロジェクト始動のきっかけ ～アイデアコンテストでグランプリ～

2019（令和元）年9月、大学生が地域課題の解決と研究成果の事業化を目指す「大学生によるアイデアコンテスト2019」に、本学短期大学部から出場した「ちーむびわたん」が「めしませ、近江の姫むすび」でグランプリ（県知事賞）を獲得しました。2017（平成29）年の「お宝まちなみ、河五八（かごやん）！～湖東伝統的建造物群保存地区を活かした新観光コンテンツの創造～」に続く2回目（準グランプリをあわせると3年連続）の受賞です。

滋賀中央信用金庫・湖東信用金庫と本学が 包括連携協定を締結



協定書を交わした（左から）
滋賀中央信用金庫 沼尾 理事長 本 学 沖田 学長 湖東信用金庫 山本 理事長
〔於：6月3日（水） 滋賀中央信用金庫 本部〕

上記コンテスト等では県内6大学の学生から、様々なアイデアが出されましたが、なかなか、アイデアの事業化には至りませんでした。

しかし、このアイデアは全県イベントとして、小さなのにぎりを無料提供することにより滋賀県をおもてなし県と位置づけ、地域連携による社会貢献を具現化し、県が推奨する近江米「みずかがみ」のPRを通じて観光誘客を見込みことができるため、滋賀県、周辺自治体、両信用金庫等の連携により事業化が決定されました。

両信用金庫は、観光誘致を行うことで、地域内での新たなビジネスを支援し活性化に寄与することを協定締結の目的とされています。協定の連携事項は以下のとおりです。

- （1）歴史資源を活かした観光まちづくりの推進に関すること。
- （2）地域の課題解決に取り組み社会貢献に資すること。
- （3）伝統的建造物群保存地区内の空き町屋活用の推進に関すること。
- （4）創業支援および新産業の創出による地域経済の活性化に資すること。
- （5）大学が保有する資源を還元・普及することで地域社会の発展に資すること。

（6）セミナー開催等により地域課題解決に取り組む人材育成に資すること。

（7）地域連携においてサポート等に資すること。

学生たちの発想を実現しようと両信用金庫が150万円を出資してくださり、2020（令和2）年度から3年間の事業を進めることとなりました。

協定式で沖田学長は、「学生が地域に貢献して、滋賀県への愛着を持って、さらにその魅力を発信したい。」と挨拶されました。

プロジェクト会議の一場面



テレビカメラの前で今後の計画を説明する学生

なお、新型コロナウイルス感染拡大の状況から、2020（令和2）年上半期の活動は見合わせとなりましたが、下半期の活動計画についての打ち合わせの様子を、BBC（びわ湖放送）様に取材頂きました。

【7月31日（金）放送】

学生・教員の声



先輩たちが中心になって取り組んでこられたものがこのような形になり、気が引き締まる思いです。少しでも地域に貢献できるよう頑張りたいです。

（2年生 辻本 真歩）



この取り組みを通じて自分自身、成長でき、就職活動でも大いに役立ちました。卒業まで限られた時間ですが、自分にできることを考え、精一杯取り組みたいです。

（2年生 山本 美怜）

プレゼンスキルアップ演習や地域政策論を学んだ成果を発揮して、大きな成果をあげることができたコンテストですが、実社会で実を結ぶように期待しています。

（ライフデザイン学科 学科長（教授）丸山俊明）



今後の予定等は、ホームページで確認ください。

「めしませ、近江のおむすびプロジェクト」で検索

<http://www.omi-omusubi.com/>



本学の新型コロナウイルス感染症対策について

令和2年が始まるとともに世界に広がった新型コロナウイルス感染症の感染拡大は、世界的にも未だ終息の見通しが立っておらず、私たちの社会生活にも多大な影響をもたらしました。本学においても、政府による緊急事態宣言の発出と滋賀県からの休業要請を受け、4月上旬から、学生や教職員の健康と安全を第一に考え、大学構内への入構を禁止し、5月上旬にオンライン授業を開始しましたが、緊急事態宣言の解除後となる6月からは、大学としての社会的な責任を果たすために、万全の感染予防対策を講じたうえで、対面授業を段階的に拡大し、オンライン授業と併用した教育活動を継続しております。この間、学生の皆さんや保護者の皆様には、ご不便をおかけしましたが、通信環境の整備など多大なご理解とご協力をいただき、誠にありがとうございました。

本学では、この未曾有の緊急事態に、沖田学長を本部長とした新型コロナウイルス感染症対策本部を設置し、新型コロナウイルス感染症に係る情報収集や対応方針の策定など意思決定を行ってまいりました。また、多くの会議の議論を経て、さまざまな感染症対策を講じ、このような状況の中でも学生のみなさんの学修が、スムーズに継続的に進むよう、最新の情報をホームページや学生ポータルサイトで発信しております。

大学における新型コロナウイルス感染症の大規模な感染拡大を防止するためには、学生、教職員それぞれが学内外での感染防止行動の徹底について正しい知識を持って、実態に即した対策に取り組むことが必要であります。感染症対策のポイントとして、感染源を絶つこと、感染経路を絶つこと、抵抗力を高めることの3つがあげられています。引き続き、学生の皆さんには、「新しい生活様式」の積極的な実践など、一人ひとりが感染しない、感染させない行動を心がけていただくよう、ご協力をお願いいたします。

新型コロナウイルス感染症はいまだ不明な点が多い感染症であり、感染拡大防止に向けて、今後も長期的な対応が必要と見込まれています。本学では引き続き可能な限りの感染防止措置を講じ、学生の皆さんが安全な学生生活を過ごす中で、安心して学びを継続いただけるよう、教職員が一丸となってサポートしてまいります。

<新型コロナウイルスに係る本学の主な取り組み>

■ 学内入構・施設設備の利用

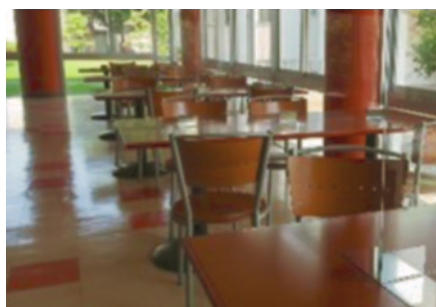
- ① 各教室への消毒液の設置、換気の徹底、マスクの着用、手指消毒
- ② 教室、食堂、学生ホールなど、ソーシャルディスタンスの確保
- ③ 食堂、学生ホールに飛沫防止パーテーションの設置

■ 経済的な学修支援

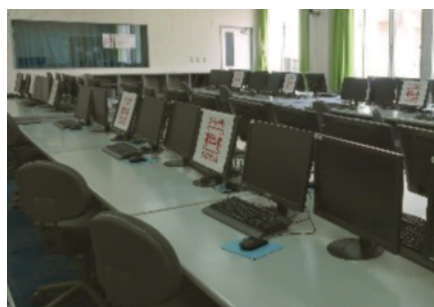
- ① 学修支援金の給付・・・在学生（一部除く）一律2万円給付
- ② 通信環境整備サポート・・・ノートパソコン無料貸与
- ③ 学費の延納・分納の期日延長
- ④ スクールバス・駐車場利用料の減免

■ 部、サークルの課外活動状況

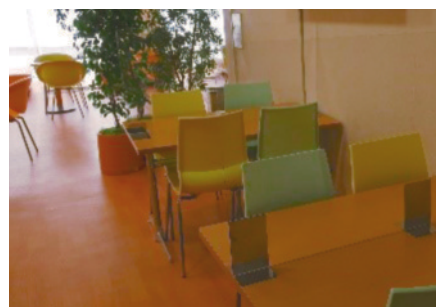
部、サークルの課外活動については、2020年3月3日より、当面の間、自粛しています。ただし、万全の新型コロナウイルス感染症対策を講じた活動計画やガイドラインを監督、顧問が作成し、新型コロナウイルス感染症対策本部にて認められた場合は、許可日より課外活動を開始できることとしています。



学生食堂



第2コンピューター室



学生ホール

春学期 オンライン授業の実施について

「オンライン授業!？」新型コロナウイルス感染症の影響により対面での授業が実施できず、オンライン授業で対応することが決まった4月中旬、本学関係者は大きな不安に包まれました。「どのように授業ができるのか?」「遠隔授業はやった経験がない」「受講者の通信環境は?」誰もが経験したことのない状況の中で授業を進めることとなりました。以下の表は、授業に関する春学期の対応を時系列でまとめたものです。

4月		5～6月	
2日 (木)	春学期対面授業開始を4月6日(月)→27日(月)とすること、4月13～24日は課題学習とする対応を決定→発表(4月13日 課題発表)	5月1日 (金)	Officeソフト(Word、Excel、PowerPoint等)の無償利用案内
16日 (木)	7日(火)に発令された緊急事態宣言が全都道府県に拡大→大学への入構禁止	7日 (木)	緊急事態宣言の期間延長 ノートパソコンの無償貸与の受付開始
	春学期対面授業開始を5月25日(月)とすること、5月11日(月)からオンライン授業を実施する対応を決定→発表	11日 (月)	オンライン授業本格開始 Googleアカウントを全学生・教職員に配布
	通信販売による教科書の販売案内(4月20日～5月1日)	14日 (木)	緊急事態宣言の区域変更(滋賀県解除) オンライン授業延長(～5月末)と、6月1日(月)から一部対面授業実施を決定→発表
23日 (木)	教員対象 オンライン授業説明会を実施(～4月27日)	21日 (木)	緊急事態宣言の区域変更(京都・大阪解除)
		22日 (金)	6月1日(月)から対面で実施する授業科目名を発表
24日 (金)	対面授業が不可欠な授業(例:「音楽」「体育」等)について、今学期は閉講とする対応を決定→発表	6月1日 (月)	一部授業について対面授業を開始
27日 (月)	『オンライン授業の準備』を作成し、案内	17日 (水)	6月29日(月)から対面授業を増やす方針を決定→実施する授業科目名を発表
	オンライン授業のためのテストを学科・コース・学年単位で実施(～5月8日)	29日 (月)	対面授業を拡大実施

※オンライン授業の種類

種類	1.同時双方向型	2.オンデマンド型	3.教科書・教材配布型
同期種別と形式	同期・リアルタイム型 生配信形式	非同期 事前の録画・録音形式	非同期 赤ペン先生方式
説明	Web会議システム等を用いて授業をリアルタイムで配信するシステム。決まった時間に学生と教員が集合し、双方向でやり取りができる。	先生側で事前に録画・録音等をしたファイルを用意しておき、学生がそれを視聴するなどの形式で学習するタイプ。 YouTubeなどにアップロードされた授業動画の参照がこれにあたる。	先生が事前に学習に必要な資料を学生に提供し、学生がそれを自分のペースで学習するタイプ。
使用ツール	ZOOM Microsoft Teamsなど	YouTube Google Drive	ポータルサイト、Eメール、FAX、電話、郵送

本学ではオンライン授業を3分類し、5月11日(月)から本格的に実施しました。緊急事態宣言解除後の6月から少しずつ対面授業を組み込みましたが、春学期末までオンライン授業を継続しました。

学生の皆さんや教職員の安全を確保しながら、学びの機会を維持できる取り組みとしてオンライン授業を実施しましたが、授業内容によっては有効な教育方法であることを確認した次第です。教育効果を高めるため、コロナ終息後の活用方法(対面授業とオンライン授業の融合)も、今後、議論を進めていく予定です。

学生の皆さんを対象に実施した「オンライン授業のアンケート」結果の一部を掲載します。

◆オンライン授業の満足度と理解度(5段階中)

種類	満足度	理解度
同時双方向型	3.45	3.47
オンデマンド型	3.32	3.22
教科書・教材配布型	3.08	3.05

◆オンライン授業と対面授業の満足度比較

対面・・・55.1% オンライン・・・18.9% 変わらない・・・26.0%

調査時期 2020年7月 有効回答数381名(63.5%)



同時双方向型のオンライン授業を行う教員

子ども学科

学科長（教授） 箱家 勝規

子ども学科では、今年度1年生104名の入学があり、これで、子ども学科総勢317人となりました。びわこ学院大学を希望して、自分の大きな、そして確実な夢を持って入学してきた学生の皆さんを見るたびに、その責任の重さを教員一同感じているところです。

さて、今年は新型コロナウイルスのため入学式をはじめ一連の行事は取り止めになり、事務的な説明のオリエンテーションが一日開催されただけとなりました。教員と新入生、さらには先輩学生との親睦、新入生の人間関係づくり、先輩学生による履修の研修を目的にした「宿泊オリエンテーション」が開催できなかったことは、子ども学科のよさを肌で感じてもらえる行事であっただけに、まことに残念な気持ちでいっぱいでした。

1年生にとりまして、6月からの唯一の対面授業は「子ども学基礎演習Ⅰ」だけでしたが、その授業内容は、クラスの所属感を高めること、成員一人ひとりのよさを引き出すこと、クラスの結束力を高めることに力を入れて計画を立て、実践をしていきました。

『私たちのクラスのメンバーはこんな人』と題して動画づくりや発表会を開催したり、クラス対抗のクイズ大会やドッジボール大会、イニシアティブゲームなどをしたりして三密を防ぎながらできうる限りの活動を進めてきました。ここで培われたクラスの仲間とのつながりは、2年生と創りあげる秋の『わくわくフェスタ』の成功につながるものと信じています。



イニシアティブゲーム

スポーツ教育学科

学科長（教授） 烏野 猛

スポーツ教育学科では、学科の充実を図るため、この4月から鳴海教授（特別支援教育）と吉見教授（水泳競技・トレーニング科学）をお迎えし、新たな学科構築に向けて邁進しているところであります。

皆さまもご存じの通り、今年に入って大流行し未だ収束の兆しがないコロナ禍の影響で、講義に関しても4月からは対面ではなく、オンラインを中心にしたものとなりました。しかし、本学・本学科の少人数教育という考え方が奏功し、6月末からはクラス・ゼミに関しては対面講義がスタートし、また履修学生が少ない講義については、対面講義が他大学に先駆け開始することができました。

ですが、スポーツ教育学科の特色でもある「地域に出向いての活動」については、春学期については延期せざるを得ず、秋学期についても、予断を許さない状況の中、教員・学生一丸となって、前を向いて励んでいる次第です。

本来であれば、2020年の今年、東京オリンピック・パラリンピックも開催され、スポーツの祭典一色で本学科も勇気づけられる年でありましたが、今回の新型コロナウイルスの影響で、新しい取り組みだけではなく、これまでの取組にも影響が出始めています。とくに労働市場の点では、学生諸君の就職活動にも、就活のスタイルだけではなく、就職先の選択についても、大きな変更を伴う試練が押し掛かっています。

ですが、学生諸君にとっての長い人生の中、ピンチをチャンスに変えるような教育を、教職員一緒になり、また学生諸君の前向きな笑顔とともに、乗り越えたいと思っています。スポーツ教育学科のこれからの活躍にご期待ください。

そして、これまで以上の、皆様の心温かいご支援を、心から願っております。



2020年2月 卒業研究発表会終了後の集合写真



ライフデザイン学科

学科長（教授） 丸山 俊明

ライフデザイン学科が対面講義を始めた6月、滋賀中央信用金庫様・湖東信用金庫様と包括協定を締結させていただきました。過去3年間のアイデアコンテストでの学生の活躍への評価が要因となったもので、これを機に湖東信用金庫職員研修会で講演させていただいたり、若手経営塾でプレゼンさせていただいたり、その活躍は7月31日放送のBBCびわ湖放送の『金曜オモロしが』でも特集いただいたところ。今後ますますの活躍が期待されます。

（写真は、湖東信用金庫職員研修会で講演する山本美怜さんと辻本真歩さん）



健康福祉（介護福祉）コース

准教授 山 和美

今年度よりコース名が変更になり、「健康福祉コース」になりました。

「健康しが」「健康寿命」と言われるように、人間が生きていく上で「健康」はとっても大事なものです。今年度から「健康管理士一般指導員」の受験資格が貰え、在学中に受験し合格すればその資格が取得できます。将来介護福祉士になる学生にとって、「介護予防」や「健康管理」は欠かせないものです。より多くの資格を取得し、福祉の現場で活躍して欲しいと願っています。



児童学コース

講師 杉本 栄子

2020年春の卒業生は33名で、80%が幼児・保育の先生に採用されました。内、7名が公務員試験に現役合格しました。

今年度は37名の新入生を迎えました。コロナ禍にあるものの、オンライン授業や対面授業で専門的知識や技能をしっかりと身につけるよう日々努力しています。2年生は、実習が6月から8月に延期となり、9月・11月と続けての実習になりますが、教材研究等、意欲的に取り組んで実習に活かそうと精一杯努力しています。教員も全力でサポートしております。



キャリアデザインコース

教授 長嶺 共全

新型コロナ対策に留意しながら、2月のインターンシップ実習を無事終えた学生の影響もあり、今年の2年生は、意欲的に就職活動に取り組んでいます。ちなみに、写真はそのインターンシップ実習の成果報告会の様子です。また、今年度は、公務員試験に臨む学生がおりますので、こちらもしっかりとサポートしていきます。そして、同コース1年生は、新型コロナの影響でオンライン授業が続く中でもしっかりと学業に励んでおります。

① 烏野 猛 (学部長・教授・スポーツ教育学科長)

- ② 社会保障法、危機管理論
③ 社会保障論、日本国憲法 等

④ 「我々は試されている」…今回のコロナ禍で思ったことを一言で表すならこれでしょう。「去年はどうだった？昨年度予算、前回議書は？」このような問いは全て意味のないことです。



つまり、過去の取り組みや事例は、この新型コロナウイルスの誕生で全てが「初めてのこと」になってしまいました。成功例も失敗例も今はすべて途中であり、結果が出ていないものですから。「試され続ける」Withコロナなのでしょうね。ということは、これまでの経験値を、新しいフェーズで進化版として置き換え、試行錯誤するしかありません。試されながらももがきながらも、あきらめず、頑張っていきたいものです。

① 箱家 勝規 (学科長・教授)

- ② 理科教育、生徒指導
③ 教科教育法理科、生徒指導論

④ 新型コロナウイルスで失ったものは大きい、逆に得たものもたくさんあった。オンライン授業はそのひとつで、授業の可能性がまたひとつ広がっただけでなく、これからの生活の幅を大きく変えるものになりそうである。



① 岩崎 信子 (教授)

- ② 健康教育、学校保健
③ 養護概説Ⅰ・Ⅱ、教職実践演習(養護)、健康相談論、学校保健論

④ 養護教諭を目指す学生にとって、感染症対策は重要な職務の一つです。学生が学生向けの保健指導や養護概説の授業の中で手作りマスクのコンテストを実施する等、通常の授業ではできないことを経験することができました。新型コロナウイルス感染症については長期的な対応が求められる状況ですが、「何もできない」とあきらめるのではなく、「何ができるか」を考えることによって、新しい発見があるのではないのでしょうか。



① 奥田 愛子 (教授)

- ② スポーツ心理学・身体教育学
③ 子どもと健康、子どもと運動、幼保実習指導

④ 余談の多い!?対面授業を反省し、ゼロからのオンライン授業づくりと授業スキルの習得とでアブラ汗が出る毎日を今も過ごしています(笑)。こうした毎日で、学生の「学べる場所」、そして学生どうしが「つながる場所」としての大学の存在が試されていることを痛感しています。Withコロナ、Withびわ学…



① 片山 弘紀 (教授)

- ② 高齢者福祉、対人援助技術、エンカウンター
③ 社会福祉援助技術論

④ 新型コロナウイルスの感染拡大の予防のために、いろいろな変化についていくのが大変であることです。たとえば、マスクをつけたり、三密を避けたり、授業がオンラインになったりと、生活様式が一変しました。そして、それが学生にも同様に影響し、1年生は友人を作ったり、サークルに入ったりといった経験が制限されていたので、とても気の毒に感じています。まだまだ、先に見えないので早く終息することを願っています。



① 新屋 久幸 (教授)

- ② 医学一般、医学・養護・介護教育
③ 医学概論、解剖生理学、こころとからだのしくみの基礎

④ 疫病。私も人類は幾度となくこの災禍に見舞われてきました。ちょっと前までは絆といわれたのに、今ではソーシャルディスタンス。見えない、はっきりした答えのないことへの戸惑い、不満、疑心暗鬼、怖れ、孤独。しかし、なくてはならないものとななくても別にこまらないうことが多くを再確認。ピンチはチャンス、With/Afterコロナ時代、学生、教員、大学、地域、お互いにどんな変容をしていくべきか、ともに考えていきたいと思っています。



① 内藤 紀代子 (教授)

- ② 保健衛生学、育成期看護、ウイメンズヘルス、思春期教育
③ 基礎看護学、看護技術演習、救急医学論、救急処置法等

④ このたびのコロナ禍を心よりお見舞い申し上げます。さて、この奇禍もたらした損失は大きいものでしたが、気づきもありました。人と人が直接つながれることの有難さ、自然界の中で人が優位ではないこと、科学が全てをコントロールできないこと…謙虚な気持ちになりました。そして、何よりも現代の若者のリモート活用力に頼もしさを感じました。学生の皆さん自信を持ってICT化の波に乗ってください。



① パン ジュイン (教授)

- ② 社会人類学、映像人類学
③ コミュニケーション中国語、地域社会学

④ 春から新型コロナウイルスの猛威に襲われ、オンライン講義が導入されました。授業準備のために、対面授業よりもさらなる工夫をしなければなりません。た。その中で何より必要に感じたのは講義の組み立て、ストーリー性です。なぜなら、90分間の授業は学生にとっては1本の映画を見るのと同じで、退屈になったらすぐに画面をオフにできる状況にあるからです。対面授業は舞台、オンライン講義は映画、さしずめ教師は俳優です。「観客」を飽きさせず、画面に集中させるにはどうすれば良いのか。オンライン講義を通して、大学とは何か、教育のあり方について、深く考えさせられました。



① 南 雅則 (教授) (新任)

- ② 学校心理学 青年心理学 教育相談
③ 学校教育心理学 発達心理学 教育相談の基礎

④ 着任早々コロナ禍の影響を受けオンライン授業を行うこととなり、これまでの授業の進め方の見直しや、新しく工夫するなど、マイナスと受け止めるのではなくプラスに捉えようという心がけています。授業準備や課題の確認には思いの外時間がかかり、余裕のない毎日を送っていますが、こんな時期だからこそ(どこにも行けないし)、今まで以上に研究に真摯に向き合いながら、一日一日を大切に過ごしていきたいと思います。



① 深田 直宏 (准教授)

- ② 体育科教育学、スポーツ教育学
③ 教科教育法体育、体育実技、教育実習指導

④ 新型コロナウイルスの影響で、1年生の体育実技が出来なくなった。毎年、この授業の中で1年生の顔と名前を覚えていた。また、講義では見られない学生の姿を見ることができた。授業は、グループになって身体活動を行うので、リーダーシップを発揮する学生、コミュニケーションの苦手そうな学生、周りに気を配る学生もいれば、中には準備片付けをさりげなく手伝ってくれる学生もいる。そんな学生の姿が見られなかったのは残念である。



①内山(林) 育子 (講師)

- ②音楽 (声楽)
③子どもと音楽

④皆様いかがお過ごしでしょうか。コロナ禍の中、厳しい状況に陥っていらっしゃいませんか。私も3月からずっと歌う仕事 (演奏会) がキャンセルになりました。生での音楽を大切にきてきた者として、手足をもぎ取られてしまったようです。しかしここでめげているはどうしようもありません。リモート演奏も挑戦してみました。マスクを付けて演奏して窒息しました。再び音楽があふれる日まで“氣”をしっかり持って、精一杯力を蓄えておきましょう！



①榎本 祐子 (講師)

- ②子ども家庭福祉
③子ども福祉学概論、家族援助論

④昨年度までまったく縁のなかったオンライン授業、最初は気恥ずかしさもありましたが、今では当たり前のようにパソコンに向かって一人で話し、誰も笑ってもツツコミもしていない状況で一人ジョークを飛ばしている授業動画を配信しています。ゼミの学生とは、新型コロナウイルスを題材としたオリジナル紙芝居動画を作成して配信したり、オレンジリボン運動のinstagramを開設したり、新たな発想でチャレンジし続けています。学生とともに、このピンチを学びのチャンスにしたいと思っています。



①川副 知佐 (講師)

- ②幼児教育・保育学
③幼児理解論、保育指導法総論、実習指導

④「先のことはわからない」という言葉は以前から使われてきましたが、このように急激に世界が変化するとは、誰も予想していなかったと思います。現在様々な困難がある中で、「人との距離を保つこと」は、時には大人でも苦労や寂しさを感じます。人が成長していく上で「人との関わり」が不可欠である以上、乳幼児保育ではどのように実践の工夫をしていくのか、改めて「本当に大事なこと」を忘れないようにしたいものです。



①白銀 研五 (講師)

- ②比較教育学
③教育課程総論、教育方法・技術論

④「新しい生活様式」が求められているなかで、大学の学びもまた大きな変化にさらされています。試行錯誤を繰り返す日々ではあるものの、こういった過程をとおして新しい可能性が見つかることもあります。もしいまが研究や教育の転換期であるとするならば、今行っている取り組みの1つ1つが、少しでも将来に資するよう努力していきたいです。同時に、予防や治療の最前線で闘っておられる方々の安全と健康を心から祈っています。



①和田 健一 (講師) **新任**

- ②造形教育、鑑賞教育
③子どもと図画工作、幼児造形など
④コンクリートの塊。

そうコンクリートの塊です。学内をお散歩するアップルの幼児 (おさなご) たちの弾んだ笑い声は聞こえず、行き交う学生たちの熱量も感じ取れない「学校」というもの。研究室へ出勤し、研究室から退勤する「学校」というもの。何でもない日常の、子どもたちや学生とのふれ合い学び合いがあってこそこの教員であり研究者であることを、あらためて考えさせられる数カ月でした。平穏な日々の暮らし、学び舎が学び舎であり続けられる様、一日も早い収束を願っています。



①渡辺 雅幸 (講師)

- ②比較教育学、教育制度学、特にインドの教育制度に関する研究
③教職入門、子ども教育学概論、教育行政・制度論など

④コロナ禍で改めて感じたことは、これまで当たり前で過ぎてきた学生との何気ない時間がいかに大切なものだったかということです。特に一年生とは例年一年間の授業を通して一人ひとりの名前や顔を覚えるだけでなく、私自身彼らとのコミュニケーションを楽しんでいましたが、今年の前半はそれらがほとんど叶いませんでした。もちろん一番つらく悔しい気持ちなのは学生たちです。再び大学が彼らの笑顔で溢れる日を心から願っています。



教育実習、保育実習、介護実習等の状況について

大学生が教員免許状を取得するには、教育実習の単位修得が必要となりますが、実習生の受入が困難である学校等も生じていることから、令和2年度に限り、教育実習が実施できない場合は、大学等が行う授業を充てることで免許取得が可能となりました。保育士についても、やむを得ず実習ができない場合、代替対応で資格取得が可能となっています。

本学でも7月までに予定していた実習は実施できず、8月以降の実習についても、施設変更、日程変更等を余儀なくされるケースが生じています。

教育職、福祉職に就く者にとって、現場での実習はかけがえのない貴重な経験ですので、機会が確保できるか心配は尽きませんが、学校・福祉施設関係の皆様のお力添えのおかげで、今年度の実習を予定している大半の学生が実習参加の目途をつけることができましたこと、たいへん有り難く厚くお礼申し上げます。

事前指導の中で、学生には日頃からの体調管理の徹底、不要不急の外出の自粛、実習2週間前からの検温の徹底にあわせ、現場で実習の機会を得られることに感謝し、自ら積極的に学ぶように指導しております。引き続き関係各位のご指導をお願い申し上げます。

①小西 喜朗 (教授)

- ②特別支援教育
- ③言語療法演習、発達障害と教育課程、特別支援教育論、インクルージョン教育論
- ④今回はじめて将来や家族のことに不安を感じました。十分な情報がないとすべて不安につながっていくのだと思いました。正しい情報がしかるべきところから入手できるようになると生活行動様式も具体的になり、不安が減ってきました。「Withコロナ」としっかりと向かい合えるように自分自身の意識や行動様式を再構築し続けている最中です。この状況はずっと続くでしょう。そしてこれが新たな「当たり前」になり歴史の転換にもつながるのではないかと思います。



①鳴海 正也 (教授) (新任)

- ②臨床発達心理、特別支援教育、発達障害の心理
- ③発達障害アセスメント論、発達障害指導論、知的障害者の心理、特別支援教育概論
- ④私は現在、NPOの理事として「自然体験を豊かにする事業」を文部科学省から委託され実施しています。その中で新型コロナウイルスを含めての医療や福祉、教育が連携してどうリスクを下げられるのか検討する作業を行っています。今まで見てきた世界がいかに安全に保たれてきたのか今一度見直す良い機会となりました。



①吉見 謙 (教授) (新任)

- ②水泳競技方法論、コーチ学、トレーニング科学
- ③生理学、水泳、トレーニング学、コーチング論
- ④警戒しながらではありますが、少しずつスポーツ活動が再開されています。私も、4か月ぶりでサッカーを楽しむ機会がありました。季節柄じめじめと暑苦しく悪条件ではありましたが、体を動かす爽快感とコミュニケーションをとる喜びがなんとも新鮮でした。その喜びは本能的なものです。それをやりたいときにできなくなったのが、奇しくも五輪の自国開催となる年に起きたことにどんな意味があるのでしょうか？答えはなかなか出せませんが、その意味は今後のスポーツ関係者の活動次第だと、大きな責任を負ったと感じる今日この頃です。



①和田 充弘 (准教授)

- ②日本教育史、日本文化史
- ③教職概論、道徳教育の指導法 他
- ④行動の自粛が問われていますが、これは欲望の増大を余りにも肯定的に捉えてきた近代の副産物に過ぎず、徳や美学を伴うものではありません。自粛に代わる言葉が見いだされた時にこそ、災厄との上手な付き合い方も可能となるでしょう。慎むことを楽しむことのできる人と社会への、切り替えの好機だと考えています。



①後藤 真吾 (講師)

- ②特別支援教育、ことばときこえ、臨床発達心理学
- ③特別支援教育
- ④大学生としての一歩が挫かれたようになった1年生には、忘れられない年になったことと思います。沢山の課題とオンライン授業と、戸惑う日々だったと思います。在校生も然り。私にとってもオンライン授業は機器の操作や授業の工夫などまさに未知との遭遇でした。オンライン授業の可能性を感じつつも、集うことによって醸し出される“空気感”は何事にも代え難く、これが教育の醍醐味かと改めて感じました。



①祐末 ひとみ (講師)

- ②スポーツマネジメント
- ③スポーツマネジメント、地域スポーツ実践論・計画論
- ④「いつか」は?と考えていた授業のICT化。考える間もなく突然と必要となったからこそ、チャレンジすることができたとは振り返っている。今回のコロナ禍では、改めて「人に伝える難しさ」を痛感した。同じ授業内容でも反応が見て取れる対面と反応がない非対面では授業の達成度が低い割に時間は数倍かかり、慣れるまでにとてつもない疲労感があった。しかし一方で、一から自分の授業内容を見直せたこの時間は今後にも活きる貴重な機会でもあったと思う。



①竹内 早耶香 (講師)

- ②スポーツ心理学
- ③スポーツ心理学、メンタルトレーニング論、スポーツ教育学基礎演習Ⅰ、Ⅱ
- ④コロナ禍中、収束を願いつつ、お見舞い申し上げます。大学は6月下旬より一部対面授業が始まり、Withコロナ時代の授業の在り方を考えさせられた春学期でした。オンラインをうまく活用し、いかに質を落とさず授業を展開できるか…頭を悩ませる日々でした。今までオンラインを活用したことがほとんどなかった私にとって新たなチャレンジをさせてもらったと思います。秋学期も学生さんによりよい学びが提供できるよう工夫してまいります。



①川口 諒 (助教)

- ②体育科教育学、教師教育学、サッカー
- ③中等教科教育法保健体育Ⅰ・Ⅲ、サッカーA・B
- ④コロナ禍においては、感染予防のために人の移動が制限されるようになりました。その中で様々な場面でオンライン化が進んだように思います。そのため、これまで当たり前人と対面で接してきたことの「意味」を再考する機会が多くなりました。今後、オンライン化がさらに進むと思いますが、非効率であったとしても、人と人が対面する機会をこれまでよりも有意義なものにしていくことで、学生が今後の社会で必要な力を身につけることにつながるのではないかと感じました。



スポーツ教育学科 コロナ禍の対応

春学期授業の大半はオンラインで実施しましたが、スポーツ教育学科で開講している体育実技系（水泳、器械運動、サッカー、バレーボール、卓球、野外活動等）の授業は閉講としました。指定学期に単位を修得できないと学生の履修に影響が生じるため、体育実技系の授業をオンラインで実施された大学も多く存在しますが、実際に競技に取り組まない状況での単位認定は難しいと判断したためです。春学期に開講できなかった授業は秋学期または次年度に対面で開講します。

春学期初めは学内入構禁止、課外活動も全面自粛であったため、スポーツ教育学科では、オンライン授業やクラス担任を通じて、特に1年生の状況把握に努めました。



野外活動でのキャニオニング(2019年度実施)

①丸山 俊明 (学科長・教授)

②生活史、都市史、建築史

③地域政策入門、地域とくらし、こどもの暮らしと環境

④当方の講義は太筋を用意しながらも、学生個々の様子を観察しながら興味のある方向へ修正・誘導していくスタイルなので、対面講義でなければ成り立たない点があった。このため遠隔プリント系講義を採用したところ、予想よりも学習効果が上がったことに驚いた。自分で問題を設定して解決する方法を学ぶ、いわゆるPBL学習の効果には正直懐疑的であったが、存学生個々の能力を引き出す有効な手法なのではないかと思いついたところである。



①榎本 恵理 (教授)

②教育史、教育思想史、国語教育、幼児教育

③教育原理、保育・教職論、子どもと読み書き、教科教育法(国語)、特別活動論等

④新型コロナの影響でオンライン授業となり、怒涛の4か月が過ぎました。当初は、いかに対面授業に近い形で行うかを考えてストレスを溜めていました。ある時、発想の転換が必要だと悟りました。対面授業に近づけるのではなく、オンラインの良さを活かすべきだと気づきました。当初は100人規模の授業をzoomで行うのは不可能と諦めていましたが、zoomのグループワーク機能を使うと、対面ではやりにくかったグループワークが可能となるなど発見がありました。柔軟な発想で挑戦することの大切さを思い知りました。



①長嶺 共全 (教授)

②物理学・情報学

③パソコン活用Ⅰ・Ⅱ、情報処理論

④今年、初めてオンライン授業を経験し、その難しさを感じました。特に、オンライン授業に使った授業資料のパワーポイントや動画には結構大変な経験をさせられました。また、オンライン授業の中でも学生たちはしっかりと勉強して、課題レポートをきちんと提出してくれたので安心しました。今後は、このコロナ感染がどうなるかわかりませんが、しっかりと授業をして、学生教育にあたっていきたいです。



①松本 行弘 (教授)

②臨床心理学、心理臨床学

③臨床心理学、発達心理学、精神保健学 など

④今回の新感染症では、授業現場でも大きな影響を受け、オンライン授業では相手の息遣いを感じられず、微妙な表情の変化や所作に気づかないまま向かい合わなければなりません。このことは、教育が声や文字だけではなく、そこに存在する人を感じるから始まるのではないかなと思わせました。一方、学生の質問や感想からは学びたいという動機付けの高まりを感じられ、本来の大学での主体的で自主的な学びに繋がっていたように思います。教員にとっても、新しい教授法や評価法などを考える契機となればと考えています。



①山 和美 (准教授)

②社会福祉学、介護福祉学

③生活支援技術演習、介護過程、介護総合演習 等

④今年の始めよりコロナウイルスの影響で、2月の実習がどうなるのか懸念されましたが、何とか施設さんのご協力で終えることができました。例年になくマスクを学生分買い集め実習に持たせる事や、感染予防に気を遣う大変な実習でした。今は夏休み期間中の実習に向け、施設さんと調整が済みやれやれといったところです。夏休みもみんなが感染せず元気に実習を終えてくれることを祈るばかりです。



①杉本 栄子 (講師)

②保育、幼児教育

③保育原理総論、子どもと言葉、幼児造形

④コロナとともに生きる…目に見えない自然災害、コロナとともに生きるには、これしかありません。それは、予防策4点(マスク着用・手洗い・うがい・換気)を盛り込んだ『コロナに負けないよ』の歌です。4月に完成しました。学生や附属こども園あつぎの園児たちにも披露しました。オケケイの所は、両手で輪を作り力強く歌ってくれました。皆さん、びわ学チャンネルを一度開いてみてください。この歌の力で、コロナ収束を願います。



①高橋 容子 (講師)

②幼児教育

③保育、教育課程論・子どもと人間関係・子どもと遊び 保育教職実践演習・保育教育実習関係、等

④コロナ感染により「普通で当たり前の生活」ができる有難さを痛感した毎日です。感染予防のための規制は当然なのですが人との関わりを絶たれることについては心が痛む思いです。人は伝え合い・受け止め合い、心を通わせて家族や友人、職場の人々と共に日々の時間を積み上げ自分磨きをしています。人との関わりは規制は何よりも苦痛でした。また、対面授業もストップとなり、学生の表情を見ながら授業が進められる幸せと、伝え合い共に考え学び合える対面授業の重要性を強く感じました。



①竹下 則子 (講師)

②音楽教育

③幼児音楽、教科教育法音楽、保育内容音楽表現

④オンラインでの合唱やリコーダー合奏は、音ズレやハウリングなどの問題が生じたため、今の通信技術では限界があることがわかりました。学生達が声をあわせて歌うことやリコーダーでハーモニーを奏でる楽しさをみんなで分かち合う…。そんなありふれた日常がかけがえのない大切なものであることに気づきました。人との接触が制限される今日において、学生にとって本当に必要な音楽とは何かこれからの音楽授業を通して模索していきたいと考えています。



①山ノ井 勉 (講師)

②社会福祉学、介護福祉学

③介護の基本、介護過程ほか

④新型コロナウィルスが、人々の生活に大きな影響を与えています。まずは、感染された方の一刻も早い回復を心からお祈りします。さて、このような社会状況において(東日本大震災の時もそうでしたが)、人生にとって本当に何が大切なのか、改めて考える機会になっていると思います。「いつもと違う生活」から学ぶのが大学教育の特色です。「どうすれば楽しくなるのか」、「何が大切なのか」、考えるきっかけにしたいと思います。



①吉原 真紀 (講師)

②介護福祉・看護

③医療的ケアⅠ・Ⅱ ころろとからだのしくみの基礎B、障害の理解Ⅱ、介護の基本Ⅲ など

④自粛中いつ対面授業ができるかわからない現状で、日々悶々としていました。特に医療色の強い医療的ケアⅠを課題学習だけでは理解は難しいので、Zoomと対面授業の併用を考えました。しかし、最初はZoomの扱いがわからず、困ることも度々ありましたが、教務課や長嶺先生、山ノ井先生に助けてもらい、無事に34コマ終わりました。合否の試験も学生全員がクリアできてホッとしています。一人ではどうにもならないことも、周囲の皆さんに支えられている事に感謝が必要とコロナ禍で深く感じさせられました。



2020（令和2）年3月卒業者の 進路決定状況等について

進路・就職支援センター

今春、大学の教育福祉学部では、子ども学科の8期生、スポーツ教育学科の3期生が卒業しました。学生自身の努力と本学での4年間にわたる教育、「基礎学力養成講座」、「採用試験対策講座」などの講座の実施により、難関の教員採用試験において、前年度同様すばらしい実績をあげることができました。また、就職内定率も7年連続で100%を達成できました。

子ども学科の採用状況は、公立小学校教諭8名、公立特別支援学校教諭1名、公立学校養護教諭1名、幼稚園・こども園・保育所では、公立に8名、私立に12名が正規採用されました。また、公私立学校・園に7名が臨時採用となりました。また、高齢者福祉施設や障がい者支援施設等の福祉施設には5名が、一般企業等に17名が就職しました。就職者の71%が教職・福祉関係に就職したことになります。

3年目となったスポーツ教育学科では、滋賀県警察官に1名、長浜市役所に1名が正規採用されました。この他に社会福祉施設に3名、一般企業等に19名が就職しました。教育福祉学部全体の教員採用は、現役生が合計で10名、過年度生の4名と併せてこの春に14名が正規合格しました。

短期大学部ライフデザイン学科では、10期生が卒業しました。就職は年度当初好調でしたが、年明けから新型コロナウイルス感染症拡大の影響が出始め、3月末時点で2名が就職できませんでした。うち1名はその後正規採用されています。介護福祉コース卒業生の介護福祉士国家試験の合格率は、全国平均の69%を上回る91%で、県内を中心にケアワーカーとして福祉施設や障がい者施設等に就職しました。キャリアデザインコースの卒業生も、取得資格を活かしてサービス業、製造業、金融業、卸売・小売業等に就職しました。また、2回目の卒業生を出した児童学コースも、7名が公立に合格するなど93%が幼稚園教諭・保育士として就職しました。

今年度につきましては、途中経過ではありますが、教員採用試験の1次試験において、小学校にのべ7名、養護教諭にのべ5名が合格しています。また、公立の幼稚園等の1次試験についても、四大生はのべ17名、短大生はのべ9名が合格しています。他の学生につきましては、新型コロナウイルス感染症の影響で、企業の採用意欲が低下する傾向の中ではありますが、危機感をもって学生の進路保障のため、きめ細やかな進路・就職支援により一層力を注いでいきたいと思ひます。

2020（令和2）年3月卒業者の 教員免許・資格取得状況等について

教務課

【教育福祉学部】

学 科	子 ども		スポーツ 教育	計
コース	子ども教育	子ども福祉		
卒 業 者	30	29	24	83
小学校教諭	15	2		17
幼稚園教諭	4	21		25
養護教諭	9	2		11
中学・高校教諭 (保健体育)			—	—
特別支援学校教諭 (知・肢・病)	5		—	5
保育士資格	1	23		24
社会福祉士		1		1

- 子ども学科卒業生59名中、いずれかの免許・資格を取得した学生は49名（83.1%）で、その内2種類以上の複数免許・資格取得者は27名（45.7%）である。（内、4名が3種類の免許・資格を取得した。）
- 社会福祉士国家試験の受験資格充足者が3名おり、内1名が国家試験に合格した。
- スポーツ教育学科の卒業生に、教員免許を取得した学生は無かった。

【短期大学部ライフデザイン学科】

コース	児童学	介護福祉	キャリア デザイン	計
	30	21	25	76
幼稚園教諭	26			26
保育士資格	28			28
介護福祉士		21 ※		21
情報処理士			7	7
実践キャリア実務士			5	5

※介護福祉士の国家試験義務化が2018（平成30）年3月卒業生より適用されている。介護福祉コース卒業生21名の内、国家試験合格者が19名（合格率90.5%）である。（2027（令和9）年3月卒業生までは、国家試験に不合格であっても、5年間連続して勤務することで資格取得が可能である。）

教員免許状更新講習

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、当初の対面式からインターネットを通じて行う通信式に変更し、当初予定から選択科目を中心に開講講座を減じて実施しました。緊急時とはいえ、受講者の方に対しては、パソコン操作や設定、また、長時間におよぶ映像視聴を求めることとなりました。また、講師の先生方にもカメラを前に無聴衆状態という環境下での教材収録と大きなご負担をいただくこととなりました。

全てが手探りの中での運営となりましたが、多くの方々のお力添えを得て、ようよう履修認定に至ることができました。1年後にどのような状況となっているのかは分かりませんが、講習終了後にお寄せいただいた評価やご意見、提言をしっかりと受け止め、引き続き、より良い講習の実施に向け準備に努めてまいります。

講座区分	当初計画	実施講習	受講者数
必修	3講座	2講座	268名
選択必修	3講座	2講座	265名
選択	22講座	9講座	767名

教育職員免許法認定講習

昨年度に引き続き、文部科学省の「幼稚園教諭免許法認定講習等推進事業」の委託を受け、幼稚園教諭二種免許状を同一種免許状に上進するための認定講習を10月から12月にかけて4科目の開催を予定しています。詳細は大学ホームページでご確認ください。

開設科目名	実施日
教育相談の理論と方法 (R2認定講習) ①	10月…24・31日
教育行政論 (R2認定講習) ①	11月…22・28日
教育内容指導法 (言葉) (R2認定講習) ①	12月…5・20日
教職入門 (R2認定講習) ①	12月…26・27日

今年度開設しない講座・講習

以下講座・講習は、今年度は閉講としております。

- ・幼稚園教諭免許取得特例講座・保育士資格取得特例講座
- ・教員免許法認定講習（特別支援教育）

担当：地域連携研究支援課 電話：0748-35-0005（直通）

大学News

短期大学部が創立30年を迎えました！

びわこ学院大学の前身であるびわこ学院大学短期大学部（旧：滋賀文化短期大学）は、1990（平成2）年4月に開学し、2020（令和2）年3月に創立30年を迎えました。

生活文化学科で開学し、1994（平成6）年には介護福祉専攻と人間福祉専攻からなる人間福祉学科を開設。1998（平成10）年には、人間福祉学科に児童福祉専攻を加えた3専攻となりました。

人間福祉学科の名称は短大では全国第1号。1998（平成10）年頃は、全国各地から入学希望者があり、学生の4割近くが下宿生という時期もありました。

滋賀文化短期大学の卒業生【2008（平成20）年4月までに入学された方】は、以下の通りです。

表1. 滋賀文化短大の卒業生数

学科	卒業生数	内訳
生活文化	1,559名	
人間福祉	2,551名	介護福祉専攻 1,039名 人間福祉専攻 770名 児童福祉専攻 742名
計	4,110名	

びわこ学院大学が開学した2009（平成21）年4月、生活文化・人間福祉の2学科を発展的に解消し、新たにライフデザイン学科を開設。1学科の複数コース制に改めました。2017（平成29）年には児童学コースを開設し、現在は3コース制（児童学、健康福祉、キャリアデザイン）となっています。

表2. びわこ学院大学短期大学部の卒業生数

学科	卒業生数	内訳
ライフデザイン	345名	介護福祉コース
	47名	児童学コース
	247名	家政系コース（情報・キャリア等）
計	639名	

1学年の定員80名の内、9割以上を滋賀県内出身者が占めています。

卒業生がまだ5,000名にも満たない地方小規模短大ですが、建学の精神である「地域に貢献できる人材育成」を実行すべく、教職員と学生が切磋琢磨しながら教育活動を展開しております。

引き続きご支援の程、よろしくお願い申し上げます。

2020 オープンキャンパス

10月17日 土 13:00 ~ 16:30

実施
イベント

大学短大概要説明／体験講座／個別相談／
キャンパスツアー／1・2年生向け入試解説／
面接対策講座／推薦過去問対策講座 など

幼稚園教諭・保育士をめざしている方へ
仕事内容や楽しさ、厳しさなど、本当に理解してから進路決定しよう！

幼稚園教諭・保育士まるわかりイベント

12月12日 土 13:00 ~ 16:30

総合説明／実習報告／卒業生トークショー／在学生との交流／
こども園見学／キャンパスツアー／個別相談 など

おすすめ
ポイント

専門職として活躍中の卒業生による「卒業生トークショー」は、参加者アンケートで毎年
高評価です！総合説明は、幼稚園教諭・保育士に関するすべてをわかりやすく説明します。

【オープンキャンパス・イベントにご参加いただくにあたって】

安心して参加していただけるよう、新型コロナウイルス感染防止を徹底し
【事前予約制】で開催します。参加申込にご協力をお願いします。

事前予約は
こちらから▶



スマホ・PC で大学を知るサイト



anytime, anywhere
WEB OPEN CAMPUS
https://www.biwakogakuin.ac.jp/web_opencampus



びわこ学院大学

びわこ学院大学短期大学部

〒527-8533
滋賀県東近江市布施町29

〔4年制〕教育福祉学部 子ども学科／スポーツ教育学科

〔2年制〕短期大学部 ライフデザイン学科（児童学コース・健康福祉コース・キャリアデザインコース）

お問い合わせ先 〔入学センター〕 0748-35-0006（直通）

〔e-mail〕 cl-admin@newton.ac.jp